



発行
 日本共産党
 寝屋川市議会議員団
 824-1181 (内線2399)
 FAX 824-7760
 Email:jcpncc@cc-net.or.jp
 No. 2452

太田 とおる
 高柳2-49-2
 ☎826-1664
 田中 ひさ子
 国松町10-36
 ☎823-1714
 中林 かずえ
 宝町4-33
 ☎839-2289

中谷 光夫
 高宮2-19-5
 ☎823-5947

松尾 信次
 下木田町12-6
 ☎821-7427

利用しやすいものに改善を

総務常任委員会 松尾議員が指摘

市議会総務常任委員会で松尾議員は、市民情報コーナーについてとりあげました。

市民情報コーナーは情報公開制度などの総合窓口として市役所本館一階に設けており、行政資料の情報提供、刊行物などの販売、コピーサー

ビスなどもしていません。昨年の本庁舎工事にもない、市民情報コーナーは面積が四三㎡から一八㎡に約四割へと、大幅に縮小されました。そのため間隔が狭く、机で調べ物をしている人がいると、その後ろの書棚には近づけない状況となっ

ています。また、場所も変わりました。以前はガラス張りでしたが、見えやすかったのが、壁に囲まれた部屋に変わり、わかりにくくなりました。この間、利用者も減っています。

市民情報コーナー 面積4割にまで減少

情報公開への 市の姿勢問われる

松尾議員は「狭くて場所もわかりにくく、利用しにくい」という市民の声を紹介。利用しやすいものにもどすよう、もとめました。市は、「スペースは狭くなっ

たが、行政資料は減っ

ていない。利用しやすいよう工夫する」と答えるにとどまりました。

松尾議員は「本庁玄関ロビーは空間が十分あり、元のようなスペースや配置はやる気になれば可能



43㎡ (上の写真) から18㎡ (下の写真) と狭くなった市民情報コーナー



である。この問題では情報公開に対する市の姿勢が問われている」と述べ、是正を強くもとめました。

三月市議会代表質問で、脱税のた

め消費税増税中止について、市長の認識を問いました。馬場市長は「消費税増税分は社会保障のために使われるもの」とし、増税を容認する姿勢を示しました▼消費税は一九八九年、社会保障のためと称して導入されました。しかし、税収の多くが大企業などの減税に使われました。また、今回も「自立自助」の名のもと、社会保障制度を後退させ、国民の負担を増やすことがねらわれています。このことをしっかりとふまえるべきです▼また市長は国保料は「適正に賦課している」とし、引き下げにふれませんでした。介護保険料は「引き下げは考えていない」と答弁しました▼しかし、二年前の市長選挙で馬場市長のマニフェストでは、いずれも「引き下げ」を公約しています。公約は市長の任期四年間通じてのものであり、四年間の実施へのとりくみと、市民への説明責任がもとめられます。

東部地域 幹線道路整備

「特別対策の復活か」 疑問の声

市長の市政運営方針では、「東部地域の特性を活かしたまちづくりをすすめるため、防災軸となる幹線道路の整備を推進します」としています。

具体的には、東部地区の三つの自治会の地域の一部一五ヘクタールを「まちなか再生エリア」とし、幅員六以上の幹線道路を整備しようとするものです。

寝屋川市内には、旧村の地域をはじめ、道の狭い地域が数多くあります。

東部地域のこの地区は長年の同和対策

事業によって、寝屋川市内でも優先して道路整備がすすめられてきました。

このような中、なぜこの地区の道路整備が優先なのか、なぜ六以上道路が必要なのかが問われます。

しかも今回の事業は法律で根拠がない任意事業で、国や府の補助は見込めません。

それだけに、「今回の事業は特別対策の復活なのか」という疑問が市民からも寄せられています。

寝屋川全体のまちづくりの中で整合性をとり、道路整備の

借地・借家人など

住民の意見反映を

あり方を検討すべきです。

また、この事業では土地所有者だけが対象にされ、借地・借家人はまちづくり

協議会から除外されています。地域に住むすべての住民の意見を反映すべきです。

びわこ復活プロジェクト

計画の縮小・見直しを



市は「ブランド戦略」の一環として、びわこ号復活プロジェクトに取り組んでいます。

これは、かつて大

阪から大津まで走行していた、びわこ号を十四年度に京阪電鉄寝屋川車輛基地（市内木田元宮1丁目）内で、約一〇〇メートル走行させることをめざすものです。

この費用八〇〇万円は募金でまかなうとしていますが、募金目標に対して一二三万円集まっています（三月一日現在）。

来年度は二八〇〇万円の募金目標と

していますが、達成はたいへん厳しい状況です。

特に、現在集まっている募金のうち寝屋川市民からの寄付は六四人からの一十二万円にとどまり、市民的なとりくみが高まっているとは言えません。

日本共産党はびわこ号復活プロジェクトの提案があつた際、

- ①市民の自主的なとりくみを基本とする
- ②市の負担を最小限にとどめることを求

集まった募金を うわまわる市の財政支出

めてきました。

市は人件費を除いても、集まった募金をうわまわる約一五〇〇万円の財政支出を行っています。

日本共産党はこの計画の縮小、見直しを求めています。



職員誌



松尾 信次

自宅と市役所で行き帰りの車の中で、CDでうたを聴きま

す。

東日本大震災復興支援のため制作された、「花は咲く」はくり返し聴き、私も何とか歌えそうです。

また、昨年の紅白歌合戦で大きな反響

をよんだ、美輪明宏さんの「ヨイトマケの唄」を聴いています。

いずれも大変印象に残るうたです。うたは聴いているだけでは、なかなかうたえません。一度カラオケでも挑戦したいと思います。

寝屋川市政について、ご意見ご要望をお寄せ下さい。